

令和 5 年 9 月 14 日(木)
午前 10 時から
第 5 分科会②-3

高齢者の住まいにおける養護老人ホームの果たすべき果たすべき役割について

あんしんネットワーク
契約入所
無料低額宿泊所

Housing issues for the elderly.

千葉県・柏市

ようごろうじんほーむひかりりんぽかん
養護老人ホーム ひかり隣保館

しせつちょう さとう たかいち
施設長 佐藤 高市

主任相談員 濱野 大祐

Mail: yogokanri@ckj.or.jp

今回の発表の施設
またはサービスの
概要
ようごろうじんほーむひかりりんぽかん
養護老人ホーム ひかり隣保館
※開業は、1950(昭和 25)年 11 月 1 日。特別養護老人ホーム及び保育園を併設する複合施設

<取り組んだ課題>
①生活の基盤である高齢者の住まいの確保は、賃貸住宅への入居が困難な状況にあることや、持ち家の高齢者単身世帯の現状は、認知症等の疾病等により、想像もできないほどの危うい状況にある。
②個人の長寿化が進み、高齢者の住み替えニーズや個人の状況に応じた住まいが段階的に必要となる。
③高齢者の生活保護受給率が急激に増加しており、無料低額宿泊所・日常生活支援住居施設に多くの行き場を失った高齢者が支援を受けている。養護老人ホームへの措置入所を急がなければならない。
<具体的な取り組み>
①ひかり隣保館のある柏市北西部に民生委員、地域包括支援センター、あいネット、不動産賃貸業関係者(宅建協会役員)、行政職員等からなるあんしんネットワークの設置規程を策定して、実際に立ち上げた。具体的には事例検討や情報共有を図った。
②養護老人ホームの空床を活用して、契約入所を実現した。更に契約入所の対象者が抱える問題について、施設職員等で解きほぐし、関係機関と連携をして、養護老人ホームをリレーポイント(中継点)として、出口支援を行った。
③無料低額宿泊所・日常生活支援住居施設との連携により、高齢者で経済的に困窮し、生活支援等が必要な方を養護老人ホームに措置入所することができた。
無料低額宿泊所・日常生活支援住居施設には、行き場のない多くの高齢者が支援されおり、国が既に示した「令和 2 年度予算要求資料」により、無料低額宿泊所等から措置入所(養護老人ホーム等)に速やかにつなげていかなければならない。

<活動の成果と評価>
柏市北西部は、つくばエクスプレス開業後、急速に発展している。柏の葉キャンパス駅周辺に、超高層マンションが建設され、一方では、1983 年直後に建設された戸建て住宅が多くあり、確実に高齢化が進んでいる状況である。
については、あんしんネットワークを立ち上げて、当該地域の課題事案を検討する機会となり、まちづくりの連携等のいしづえを築く。大手不動産会社及び地域にある大学及び、住民自治団体等の連携を行い、マルシェ開催を今年度計画して、地域福祉をダイナミックに進めていきたい。
当社会福祉法人 千葉県厚生事業団が高齢者の住まいや生活支援の課題等を明らかにして、子育て世代の支援についても行き、地域に開かれた社会福祉法人としてさらなる充実を努めていく。
養護老人ホームに契約入所という手法を取り入れることにより、高齢者住まいの問題に直面した方々を受け入れることができた。
養護老人ホームに緊急一時保護を取り入れることにより、それをリレーポイントとして、地域に戻していくことを試みることができた。
最後に、無料低額宿泊所・日常生活支援住居施設に関して、東京都にある当該施設を訪れ職員の方々からレクチャーを受けることができた。
支援されている高齢者の方々とお会いして、自治体との連携により、当該施設から 1 名の方を養護老人ホームひかり隣保館に受け入れた。
<今後の課題>
措置をする自治体職員が、生活保護法の他法優先を理解し、老人福祉法等に基づき、高齢者の措置入所を積極的に展開してほしい。